

令和8年度第1回青森県立郷土館協議会について（会議概要）

令和8年度第1回青森県立郷土館協議会が開催されましたので、その内容をお知らせします。

1 日 時

令和8年7月29日（水） 13時30分～15時30分

2 場 所

青森県立郷土館 小ホール

3 案 件

- （1）令和7年度事業実施状況及び利用状況について
- （2）令和8年度事業実施計画について
- （3）博物館評価について
- （4）その他

4 委員からの主な意見

- サテライト展のアンケート回収率が19.4%だったとのこと。あれだけ多くの方が来てくれた中、アンケートの回収をもっと増やせたらもっと色んなものが見えてくると思うので、増やす努力をした方がいい。
- サテライト展のアンケート結果に、少数だが展示内容の満足度を「不満」とする回答もあった。その中に参考になる一番大事な意見があるのでしっかり拾って、意識をして進めていけたらもっともっといい展示ができると思う。
- 教育普及事業は利用者が前年度より増えたとのことで、興味を持つ方が増えたことは素晴らしく、継続していただきたい。その中で、出前授業は19件実施したとあるがもう少し増えたらいいと思う。そのためには、設定しているテーマをもっと広げるといいのかなと感じた。
- 三戸城（城山公園）で開催した自然観察会の参加者が定員20名に達したとのことで素晴らしいなと思った。こちらも三戸城でイベントをやってきたが、土日開催にしたりと色々工夫してもなかなか参加者が増えなかった。
- 弘前市在住で中学校に勤めているが、共催展が弘前市で開催されたことや藤崎町で開催中であることを今知った。小・中学校にはチラシ等が市町村教育委員会からデジタル発信されるようになりつつある。紙媒体より経費はかからない。デジタルには端末を開かないで見ない子も出てしまうマイナス面もあるが、そういうデジタル配信も活用すれば小・中学校でも見られると思う。

- 学校からのデジタル配信だと、まず親に届いて子どもまで届かない状況もある。子どもに来てほしいイベントはチラシも配るなど区別するといいと思う。
- 広報については、チラシもSNSもマスコミも利用して、うまく最善の方法でやっていかざるを得ない。
- 児童生徒対象の事業が去年と比べて縮小しているように感じる。昨年度実施の、未来の学芸員を育てる観点での児童生徒対象の事業であった「高校生・大学生が考える未来の博物館構想事業」は、すごくいい企画だと思って賛同したし、手伝いもした。去年、大学体験で来た中学生に、自分のペンケースにキャプションをつけてみよう、というのをやってみた。1時間くらいで簡単にできる。そういった中・高校生、大学生が対象のワークショップなどをやって学芸員ファンを増やしていったほしい。
- 教育普及事業の参加者のリピーター率がどのくらいか、事業の実施側としてリピーターへの意識はあったほうがいい。
- 資料収集は郷土館から働きかけるのではなく、寄贈資料を受け入れているとのことであったが、館側からアプローチするわけではないのに資料収集に達成目標を立てるのは酷なので、先に説明のあった受け入れ基準により研究等に活用できるよい資料であれば1点でも充実するというのであれば、そういった質的な評価も目標に入れてよいと思う。
- 資料受入等判定会議は館職員で構成しているとのことだが、以前勤めていた美術館には外部委員による資料収集判定会議があった。寄贈でも購入でも良い悪いを判断していた。文化庁から収蔵資料の廃棄のことが明示されたことで、廃棄の基準を設けようとするときに、勤務している博物館にはまだないのだが、外部委員による組織が必要ではないかと考えている。郷土館に先鞭をつけてほしい。良い悪いの判定理由の情報公開も出てくると思うが、それも最初から年報などで公表すれば済む話。そういう透明性が必要になってくると思う。
- 本県は文化財指定を外部委員の文化財審議会で決めているし、新しい博物館ができるのだから、受け入れ判定を第三者委員会にやってもらうことについて、少し考えてみてはどうか。
- タブレットで見ても資料の質感まではわからないので、出前授業で実際のものを見るとか触るとか、そういった直接的、より具体的な体験ができると色々なものに興味を持つことができ、そこから色々なものに発展していけるのだと思う。

- 調査研究の成果はホームページに公開している研究紀要で読むことができるのだが、新しい博物館になってからでもいいので、展示等で実際に見たりできる機会があることを楽しみにしている。
- ホームページや郷土館YouTube公式チャンネル「キョドチャンネル」の更新回数が少ないのと、ホームページだと一般の人には探しづらいという印象を受けている。例えば、チラシをショート動画でYouTubeとかTikTokに載せるだけでもありだと思う。作った動画が面白くても、自分から見に行ったり、SNSにあがってきたりしなければ気づいてもらえない。また、ホームページのお知らせにYouTubeに動画をアップしたとあっても、一番下までスクロールしないとYouTubeに飛べるリンクにたどり着かない。前回の協議会で、インスタグラムのリンクの貼り方の違いについて話をしたが、それと同様に、きちんと飛べるリンクを貼ってほしい。SNSを入口にしてホームページに飛んで、そこから動画に飛んで、興味を持ってまたホームページに戻ってきて、最終的には来館する、というように回っていかないとだめだと思う。